

JAPIC NEWS

<http://www.japic.or.jp>



JAPIC NEWS

財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)
No.277

2007

5

Contents

■ 巻頭言

「病院薬剤師今昔」

(社)日本病院薬剤師会 副会長 依田 啓司 2

■ インフォメーション

JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2007年4月 発刊 4

第9回JAPICユーザ会開催案内 5

第128回薬事研究会開催案内 5

■ トピックス

参加記 (第35回JAPIC医薬情報講座)

医療の安全対策に情報を活かす 旭化成ファーマ(株) 藤岡 徳安 6

医薬情報講座に参加して 伊藤ライフサイエンス(株) 岩垂 裕子 7

JAPICサービスの紹介(4) iyakuSearch 8

新入職員紹介 10

「理事会」「評議員会」の概要報告 11

■ シリーズ

東南アジアの医療事情(13) ミャンマー(2)

お茶の水女子大学 生活環境研究センター 客員教授 佐竹 元吉 12

■ 図書館だよりNo.203

■ 情報提供一覧

編集・発行／財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 長井記念館3階、5階 TEL.03-5466-1811 FAX03-5466-1814

e-mail:gyoumu@japic.or.jp URL:<http://www.japic.or.jp/>

病院薬剤師今昔

(社)日本病院薬剤師会

副会長 依田 啓司 (Yoda Keiji)
JAPIC評議員



過去の本欄を見ると例外なしで大変格調の高い文章で埋まっている。そこでこんな笑い話などを書いても良いものか心配になるが、編集担当の方から肩の凝らない内容に“打破”して欲しいとの注文であるので、悪しからずお許しいただきたい。

早坂隆さんという方が書いた「世界の日本人ジョーク集」という本の新聞広告に、沈没する豪華客船の船長が各国の乗客たちを海に飛び込ませる指示を、各国人の気質をパロディー化して表現してあったのが面白く買ってみた。読み始めてすぐ笑ってしまったのに、日本人とロシア人の技術者が車の気密性について話すものがある。日本人の技術者が「わが国では気密性を試すには、猫を一晩車の中に入れておきます。翌日猫が窒息死していたら気密性は十分だと判断します」。すると、次にロシア人技術者が「わが国でも、気密性を試す為に、猫を一晩車の中に入れておきます。そして翌日、猫が車の中にいれば、気密性は十分だと判断します」というものである。

そこで自分も医療現場のジョークを作ってみた。

病室である患者さんに麻薬の坐剤を挿入したところ、

その刺激ですぐ排便してしまった。看護師が医師のところに報告に行くと、医師は「もう一回挿しといて」と言って、新たに麻薬処方箋を書き直した。看護師がそれを持って薬局に行くと、薬剤師が「大変だ。その麻薬をすぐ回収して、持ってくるように」と。それに対し、看護師は「今、このような場合のナーシング・ケアはどのようにしたらよいかミーティングをしています」と。一方、病室では患者とその家族が「坐薬が出たのは医療ミスか薬の副作用ではないか」と大騒ぎを始めている。

笑っていただけたでしょうか。ジョークはそれぞれがそれなりに合点できる共通意識があり、その上に個々のイマジネーションが織りなすユーモアの世界であろう。従って、ジョークや洒落に説明を加えてしまったら、もはやジョークの面白味が消え失せてしまうのだが、不粋にも若干説明を加えてみる。

医師は麻薬取締法や療養担当規則、医療法などに全く無関心で唯我独尊であり、薬剤師は法律や形式ばかりに囚われ、薬局の中に閉じこもり現場を考えない。看護師は会議ばかり開いて頭でっかちとなり、看護師の立場ばかり主張する。患者は不本意なことはすべて医療過誤か薬の副作用と考えている。

こう書いてしまうと本当に笑えないブラックジョークとなってしまうが、ちょっと昔の医療現場の姿を滑稽に表してみた。

しかし時代は大きく動いており、先に述べたジョークの世界は過去の遺物となり、現在の病院はチーム医療が中心となり医療の質や安全と安心に大きな力が注がれている。一例を挙げれば、癌化学療法のチーム医療が分かりやすいであろう。

医師は自ら実施しようとする癌化学療法を、関わるチームスタッフ全員に説明し情報を共有して実施する時代となった。その施設で実施される癌化学療法はプロトコルを登録制とし、薬剤師を始め他の医療スタッフのチェックがかかるシステムが取られている。またそれぞれのプロトコルを複数の医師や薬剤師で構成される委員会で最新のガイドラインやEBMと照らし合わせをして安全性が高く良質な癌化学療法が吟味されている。

化学療法の実施に際し、薬剤師はその登録されたプロトコルと間違いはないか確認し、用法や用量設定に対し体表面積や体重などから再確認をし、安全キャビネット内で抗癌薬の無菌調製を実施する。さらに病棟の薬剤師はベッドサイドに行き、実施される化学療法の流れと投与される薬剤の内容を予想される副作用なども含め実物の写真の入った説明書とともに説明をし、患者自身が副作用の第一発見者となり得る服薬指導が行われている。投与後もそれぞれの抗癌薬の特性に応じ、副作用のモニター項目とその発現時期を設定し、チェックシートを使ってフォローしていく。用量規制因子のモニター項目を注意深く見守り、何クールにも渡る化学療法には抗癌薬の総投与量などにも眼を配る。看護師も前投薬や支持療法の意味を理解し、患者の精神的ケアを含め患者とともに薬物療法を支えている。

癌に伴う痛みに対して、緩和医療の重要性も認識され、疼痛緩和における薬物療法には薬剤師が大きな役割を担うようになった。適切な麻薬や鎮痛補助薬を提案し、医師、看護師と組み、疼痛評価を繰り返しレスキューやベース用量を加減する。さらに、残念にも担当した患者さんが逝去された場合には主治医や看護師とともに担当薬剤師も出棺に立ち会うこともされている。

このように、現在、病院薬剤師は臨床現場で医療チームの一員として必要欠くべからざる存在として役割を果たす時代に変化している。本誌読者の皆様にも、ぜひこのように変化している病院薬剤師の役割を理解していただきたくこの誌面に紹介させていただいた。今後6年制を経て臨床教育が充実された薬剤師が巣立ってきたら、病院薬剤師の活躍の場は益々広がるであろう。

このような病院薬剤師の役割と業務が大きく変革していることに対し、昨年末から厚生労働省に「病院における薬剤師の業務及び人員配置のあり方検討会」が設けられ、現在検討が進められている。日本病院薬剤師会では病院薬剤師が臨床の現場で薬学の視点から大きく貢献できる環境を構築していきたいと考えている。病院薬剤師が保持している潜在能力を発揮させるためには、もう少し手厚い人員配置が必要であると考えている。前述したような役割を果たしている病院は地域格差もあるが薬剤師が病棟に専従するなど人員が十分に確保されている施設である。関係各位の皆様にも人員問題について大きくご理解とご支援をいただきたい。

■「JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版2007年4月」発刊

2007年4月末に、“JAPIC 医療用・一般用医薬品集インストール版 2007年4月版”を発刊いたしました。

今版より医療用医薬品を一括管理可能な唯一のコードで検索できる、“HOT番号検索機能”を搭載いたしました。

HOT(ほっと)番号とは、医療用医薬品に付与した13桁のコードで、4つの汎用コードである、薬価基準収載医薬品コード、個別医薬品コード(YJコード)、JANコード、レセプト電算処理システムコードを対応付けしたものです。

本インストール版では、YJコードと一対一対応にあるHOT9データを収録しております。今版より追加いたしました“HOT番号検索機能”においては、一般的な検索仕様である中間一致検索のみでなく、HOT7からの製品特定に便利な前方一致検索も搭載しております。

また、医療用医薬品製品情報は2007年4月の時点のものを収録し、最新の薬価情報・経過措置情報に対応しております。



●収録データ

医療用医薬品データ:2007年4月1日時点の医療用医薬品添付文書情報(2007年3月16日薬価収載分を含む)・薬剤識別コードデータ、薬価データ及びHOT番号データを収録

一般用医薬品データ:2006年3月一般用医薬品調査に基づいたデータを収録

●搭載機能

自由語検索として医療用薬、一般用薬、その両方の同時検索機能及び(医療用薬)薬剤識別コード検索機能を搭載し、添付文書本文情報を表示します(参考情報として医療用医薬品添加物データ表示機能、iya-kuSearch収載医療用薬添付文書PDFのリンク・表示機能を搭載)。

◆◆◆ 今版よりHOT番号検索機能を追加いたしました ◆◆◆

また、医療用医薬品本文内容を取り込んで院内採用医薬品集として編集することができます。その編集内容は、出力して印刷、または更なる編集素材として利用でき、また、採用品データを共有あるいは次版へ引き継ぐことができます。

また、YJコードリストから採用品への一括登録ツール(Win専用)をCD-ROMに収録しております。他ソフトウェア等で採用品をご利用されている方もデータ共有にご利用ください。

●1枚15,000円(税・送料込)ですが、年間セットあるいは複数台をお申し込みの方は廉価で提供いたします。購入ご希望・お問い合わせは、事務局 業務・渉外担当(TEL:03-5466-1812、FAX:03-5466-1814)までご連絡下さい。

■ 第9回JAPICユーザ会開催案内

平成19年度第9回ユーザ会を下記の日程にて東京と大阪で開催いたします。今年度の新規事業、取組みについてご紹介させていただきます。特別講演としては日本医療情報システム開発センターの武隈氏に、また、JAPICサービスを利用した事例を会員の皆様の中からご発表いただきます。ユーザ会終了後簡単な懇親会も準備しております。多数のご参加をお待ちしております。

日時・会場 大阪 平成19年6月5日(火) 13:30～17:30 大阪YMCA国際文化センター(大阪市西区土佐堀1丁目5-6)
東京 平成19年6月7日(木) 13:30～17:30 長井記念館ホール

参加費 無料

申込方法 JAPICホームページからお申込ください。

【プログラム】 13:00～ 受付開始
13:30～13:35 主催者挨拶
13:40～14:40 平成19年度新規事業、重点化事業について(JAPIC担当者)
14:40～15:00 休憩
15:00～15:30 JAPIC情報活用事例 ZLBベ어링株式会社 松並 茂樹 氏
15:20～16:20 特別講演 「医薬品流通コードについて」
(財)医療情報システム開発センター 武隈 良治 氏
16:20～16:30 質疑応答 閉会の挨拶
16:30～17:30 懇親会

■ 第128回薬事研究会 開催案内

薬事研究会を下記により開催致しますので、多数ご参加いただきますようご案内申し上げます。

医薬品の治験や承認審査の迅速化について検討することを目的に厚生労働省の「有効で安全な医薬品を迅速に提供するための検討会」が昨年設置されました。ドラッグラグ問題を解消するためにはアジア地域での国際共同治験が重要になるといわれています。今回の薬事研究会では、迅速提供へ向けた厚生労働省の環境整備および治験をめぐる動きについて、講演していただきます。

日時 平成19年6月20日(水) 13:30～16:30

場所 草月ホール(東京都港区赤坂7-2-21 草月会館地下1F) 03-3408-9113

講演 (1)「新薬促進とドラッグラグ」(仮題) 厚生労働省医薬食品局審査管理課
(2)「アジア地域での国際共同治験」(仮題) 医薬品医療機器総合機構

参加費 資料費及び会場費等としてJAPIC会員1名 3,000円 非会員5,000円
当日会場にていただきます

申込方法等 JAPICホームページ(<http://www.japic.or.jp>)に掲載の申込入力フォームに必要事項をご記入の上、平成19年6月13日までに申し込み下さい。

第35回JAPIC医薬情報講座 参加記

医療の安全対策に情報を活かす

旭化成ファーマ株式会社 医薬学術統括部 藤岡 徳安

私は現在、学術情報グループに所属し、医療関係者や医療消費者からのくすり相談にも対応しています。くすり相談窓口の役割として最も期待されていることは、重篤な副作用の未然防止であると考えています。とりわけ医療消費者からの副作用相談の際、重篤な副作用の前兆が出ていないかなど、注意深い対応が求められるところです。

こうした背景もあって、今回の講座「医療の安全対策と医薬品情報」に参加しました。1日目のみでしたが、特に印象に残り感じたことなどを紹介させていただきます。

伏見環氏(1題目)のお話で注目したのは、新しくスタートする「医薬品安全性情報を医療機関内全体で有効活用する方策の作成支援事業」です。確かに、既知の副作用が繰り返し発生している実態があり、安全対策サイクルの最終段階として“情報活用化”は重要です。本事業がその発生回避に繋がることが望まれます。伏見氏と別井弘始氏(2題目)も話された「重篤な副作用疾患対応マニュアル」「患者向け医薬品ガイド」「一般用医薬品のリスク程度に応じた情報提供と相談体制整備(情報提供のメリハリと実効性の向上)」等も“情報活用化”であり、当局施策の最近の方向性が窺えました。

水澤英洋氏(3題目)のお話は、私には最も興味深いものでした。神経系疾患の特徴や薬物関連神経障害のメカニズムなど総論から解りやすく伺うことができました。書籍だけでは得られない理解が得られ、今後きっと役立つなと思っています。

今井聡美氏(4題目)は、大手チェーンドラッグストア等52店舗を対象に市販薬の販売環境を実地調査した結果を報告されました。問題が多い現状ですが、1/9チェーンで“薬を扱う使命”を明らかに意識している結果でした。消費者はこの1チェーンの存在を大切に“納得して市販薬も選ぶ!”とのメッセージが聞えました。

後信氏(5題目)からは、医療機関からの事故情報やヒヤリ・ハット情報、また事故防止に有用な情報等を収集・分析

して、改善方策等を社会に提供し、必要な助言・支援を行う「医療事故情報収集等事業」の現況について伺いました。“不幸な医療事故が繰返されない社会にしたい(するぞ)”という、後氏の気迫を感じました。

今回のテーマで気迫というと27年程前お会いした(株)海外医薬情報研究会の野田弘一氏を思い出します。当時扱っておられた国内外の医学・薬学雑誌800余誌から独自に抽出・加工した副作用情報を定期刊行する地道な仕事を続けておられたのです。民間企業で継続することは厳しいはずですが、今も引継がれています。JAPICとは別に、医療の安全対策を支えようとするこのような存在が日本にはあることをチョット記させていただきました。講師の熱意に接することのできるよい講座は、聴講者の多くにエネルギーとなります。今後もJAPIC活動の一つとして継続されることを期待します。

第35回JAPIC医薬情報講座

テーマ:「医療の安全対策と医薬品情報」

1日目/3月1日

医薬品安全対策に関する最近の主な施策
伏見環(厚生労働省医薬食品局安全対策課)
総合機構における安全対策の取組み
別井弘始(医薬品医療機器総合機構安全部)
神経系副作用への対応—重篤副作用疾患別対応マニュアルから
水澤英洋(東京医科歯科大学大学院)
消費者からみた医薬品安全対策
今井聡美(納得して医療を選ぶ会)
医療事故情報収集等事業
後信(財団法人日本医療機能評価機構・医療事故防止センター)

2日目/3月2日

薬剤サイドエフェクトとバイタルサインの評価
西村敏博(早稲田大学大学院)
がん対策情報センターの取組
柴田大朗(国立がんセンター 薬事・安全管理室)
ナノテクノロジーを利用したDDS
加藤泰己(ナノキャリア(株))
日本中毒情報センターの活動
遠藤容子(大阪中毒110番施設)
癌専門薬剤師の取組み
北條泰輔(国立がんセンター薬剤部)

第35回JAPIC医薬情報講座に参加して

伊藤ライフサイエンス株式会社 品質保証グループ 安全管理担当 岩垂 裕子

今回のテーマは「医療の安全対策と医薬品情報」で、若手からベテランの方々まで会場がほぼ満席になるほど多くの方々が参加され、皆の関心の高さが感じられました。第1日目の内容は、現在私が携わっている安全管理の業務に直接係わるもので、大変勉強になりました。今後の業務に活かしてまいりたいと思います。

厚生労働省医薬食品局の伏見先生、医薬品医療機器総合機構安全部の別井先生からは、厚労省および機構における安全対策についてのお話を賜りました。その中で、「後発医薬品に係る情報提供の充実について」(平成18年3月24日厚生労働省安全対策課長通知)への対応については、弊社でも添付文書の記載について検討中であり、「患者向医薬品ガイド」は該当品目について作成し、機構HPに掲載しております。また、「副作用・不具合ラインリスト」は、自社製品以外にどのような副作用が報告されているのかを把握するために活用しております。東京医科歯科大学の水澤先生からは、神経系と神経疾患の特徴、重篤副作用疾患別対応マニュアルの中から、薬剤性パーキンソニズム、白質脳症、横紋筋融解症についてわかりやすく解説していただき、興味深くもって講義を聞いて知識を深めたいと思いました。納得して医療を選ぶ会の今井先生からは、一般用医薬品の販売の現状について大手チェーンドラッグストア等を対象とした調査結果が報告されました。その中で薬剤師による説明が必ずしもわかりやすいものではないとの指摘があり、適切な医薬品情報提供の難しさを感じました。日本医療機能評価機構 医療事故防止センターの後先生からは、医療事故情報収集等事業と平成17年年報の中から主な内容について解説していただきました。医療事故全体の中では薬剤の占める割合は低いものの、類似名称薬間の薬剤間違い、同じ場所に置いてあった薬剤の取り違え、薬剤量・単位・希釈等の間違い等は、生命に関わるおそれもあります。弊社でも製品の表示についてはわかりやすい記載を検討し、販売名の変更も行なっております。以上、

JAPIC医薬情報講座は企画構成や内容が充実しておりますので、また次回も参加したいと思っています。

さて、話は変わりますが、実は私はJAPICの卒業生であり、その後いくつかの職種を経て再びJAPICと係わりを持つようになりましたが、10年以上の月日が流れても、いまだ多くのスタッフが昔と変わらず元気に働いている姿は、私にとっても励みになります。今では、JAPIC-Daily mail, JAPIC-Daily mail plus, JAPIC-Q, JAPIC -Q Plus, Pub-Med代行検索と私の日常業務に欠くことのできない存在であり、文献もiyakuSearchから申し込むと良心的な値段で1-2日で届くので、大変助かっています。ただ、iyakuSearchの検索結果の表示文字が小さすぎると感じるのは年のせいでしょうか?

最後になりましたが、JAPICの益々の発展を祈念いたします。これからも内容の濃い質の高い企画を期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



講演会場

JAPICサービスの紹介 (4)

iyakuSearch

ユーザの皆様へ提供しているJAPICの各種サービスについてご紹介しているシリーズの4回目は、iyakuSearchです。

【iyakuSearchとは】

iyakuSearchは国内外の医薬品情報に関するデータベースサービスで、医薬文献情報、学会演題情報、医療用・一般用医薬品添付文書情報、臨床試験情報、日本の新薬、学会開催情報などを提供しております。

以下のURLからそれぞれのデータベースへアクセスすることができます。

<http://database.japic.or.jp/>

【医薬文献情報】

国内外の学術雑誌415誌から、医薬品の有効性や安全性に関する記述のあった文献を採択し、JAPICで作成した抄録と医薬品を中心としたキーワードを付与して提供しています。

【学会演題情報】

国内で開催された約4500学会の発表演題から、医薬品の有効性や安全性に関する演題について、書誌的事項と医薬品を中心としたキーワードを付与して提供しています。

【医療用・一般用医薬品添付文書情報】

JAPICで収集している医療用医薬品約18000品目および一般用医薬品約8000品目の添付文書情報をPDFファイルで提供しています。

【臨床試験情報】

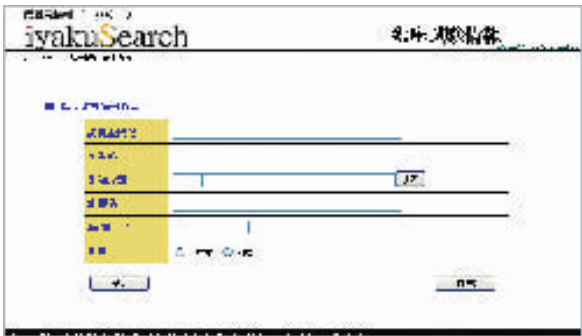
臨床研究および治験の情報公開を目的に、登録者からの情報を掲載しています。



<http://database.japic.or.jp/>



医薬文献情報、学会演題情報、医療用・一般用医薬品添付文書情報検索画面



臨床試験情報検索画面

【日本の新薬】

1998年1月以降の新薬承認審査報告書を編集し、データベースとして提供しています。

【学会開催情報】

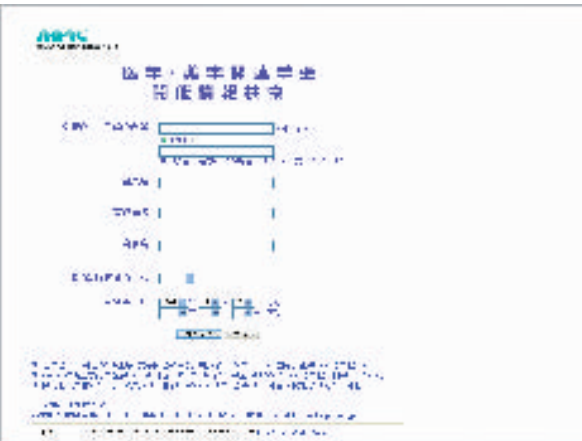
2004年以降、日本国内で開催される医学・薬学関連の学会、地方会、シンポジウム、国際会議等の開催情報を、会議名、開催地名、開催年月日などから検索することができます。

各データベースの概要を下記の一覧表にまとめました。それぞれのデータベースは無料で検索することができますので、お試しください。

お問い合わせ・ご質問は業務・渉外担当(電話 0120-181-276, Eメール gyoumu@japic.or.jp)までお願いいたします。



日本の新薬検索画面



学会開催情報検索画面

	医薬文献情報	学会演題情報	添付文書情報	臨床試験情報	日本の新薬	学会開催情報
名 称	医薬品の有効性や安全性に関する情報	医薬品の有効性や安全性に関する情報	医療用、一般用医薬品添付文書	臨床研究・治験の概要および結果	新薬承認審査結果	医学・薬学関連の学会、地方会等の開催情報
情 報 源	雑誌論文(国内誌約400誌、海外誌15誌)	国内開催の約4500学会発表演題	医療用、一般用医薬品添付文書	登録者からの情報	新薬の承認審査報告書	雑誌、業界紙、学会ホームページなど
収載データ	1983年以降、約31万件	1993年以降、約54万件	医療用医薬品18000品目、一般用医薬品8000品目	登録者からの情報、約500品目	1998年1月公開分以降約390品目	2004年以降
データ内容	書誌的事項、キーワード、抄録	書誌的事項、キーワード	医療用、一般用添付文書のPDF	試験の名称・内容、問い合わせ先など	審査報告書全文、構造式	学会名、開催年月日、開催地など
データ更新	月1回	月1回	医療用月2回 一般用随時	随時	随時	随時

新入職員紹介



伊藤 永久佳 (Ito Towaka)
(医薬文献情報担当)

明治薬科大学薬学部を卒業後、同大学大学院に進学し、昨年度三月に博士前期課程を修了いたしました。大学院では、臨床薬学を専攻し、症例報告会を通して患者に適した薬物治療について、主に学んでまいりました。症例検討会を通じ、医薬品に関する情報をいかに早く・適切に収集し、患者さまに対する治療に役立てることができるか、ということが重要であることを日々感じてきました。今、この医薬品に関する情報を提供する側にいることができ、嬉しく思っています。また、ここから新しいことを吸収し、日々努力していきたいと考えています。私は映画を見ることが好きで、これから公開される映画を楽しみにしています。これからも、笑顔で元氣にがんばっていききたいと思いますので、皆様、宜しくお願いいたします。



小林 映美 (Kobayashi Emi)
(添付文書情報担当)

出身は明治薬科大学薬学部衛生薬学科です。所属していた生化学研究室では、脂質代謝に関する卒業研究を行っておりました。細胞への脂質の取り込みを促進すると考えられているタンパク質を用い、その働きを少しでも解明することを目標とし、日々実験に励んでいました。JAPICを知ったのは、就職課の掲示板で求人票を見つけた時です。「情報提供を通じて国民の保健医療の向上に寄与する」という業務内容に興味を抱き、応募を決めました。正しい情報を幅広く提供するという仕事は、あらゆる情報を誰でも簡単に手に入れられる社会において、とても必要とされていると感じました。今では、自分もこのような仕事に関われる事をとても嬉しく思います。出身地は茨城県で、大学は郊外の方へ通っていました。渋谷という都会で働くことになり、人の多さや交通の便の良さに毎日驚かされています。今の目標は、早く仕事を覚える事と、満員電車に慣れる事です。一日でも早くJAPICの一員として仕事ができるようになりたいと思っています。ご指導のほど、宜しくお願い致します。

「理事会」「評議員会」の概要報告

3月12日(月)に第20回評議員会、16日(金)に第105回理事会が開催されました。それぞれの議題は以下の通りであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

役員の異動では、理事の交代がありました。

そして、今回の主な議題でありました、平成19年度事業計画(案)については、平成19年度は「第二期中期3ヵ年計画」の最終年であり、重点事業として掲げた①医薬品集の出版、②添付文書情報の普及、③iyakuSearchの充実・普及、④JAPIC-Qサービスの改善・普及、⑤JAPIC Daily Mail関係の充実・普及、⑥研究開発支援情報の提供、の6つの事業を中心にして改善・発展させ3ヵ年計画を纏め上げる事、そして情報の電子媒体での提供へのシフト、個別のユーザに対するサービスの取り組み等に留意していくことを説明し、承認されました。

平成19年度予算につきましては、まず、近年の事業内容の変化に対応するため、収入及び支出科目の名称、内訳を変更致しました。またこれらの科目における一般会計と情報提供事業会計の区分についても見直しました。その上で、予算の主な概要は、事業活動収入は13億3,282万円(平成18年度予算に比べ6,100万円の減少)、事業活動支出は、12億652万円(同じく948万円の減少)であります。事業活動収支差額は、1億2,629万円の収入超過であります。また当財団全体の収支差額は1億7,998万円の支出超過となりますが、特定資産取得支出等、外部に出て行かない支出が1億8,000万円あり、これを加味するとほぼ収支均衡の予算となっております。

なお、ご承認いただきました平成19年度事業計画は、一般会員の皆様へお届けいたしました。

●「第20回評議員会」

3月12日(月) 15:00～16:30、当センター3階会議室

《議 題》

1. 理事の選任について
2. 平成18年度事業報告及び収支状況報告について
3. 平成19年度事業計画(案)について
4. 平成19年度収支予算計画(案)について

●「第105回理事会」

3月16日(金) 15:00～16:30、当センター3階会議室

《議 題》

1. 維持会員・賛助会員の異動承認について
2. 平成18年度事業報告及び収支状況報告について
3. 平成19年度事業計画(案)について
4. 平成19年度収支予算計画(案)について

【役員の異動】(※敬称略)

《理 事》

退 任:北澤 清

(武田薬品工業 常務取締役製薬品戦略部長) 3月12日付

新 任:宮本 政臣

(武田薬品工業 医薬開発本部長) 3月13日付



ミャンマー〔2〕

ミャンマーのケシ代替植物プロジェクト

お茶の水女子大学生活環境研究センター
客員教授 佐竹元吉 (Satake Motoyoshi)



ミャンマーで活動開始

効率よく成果が見えるようにするためには、的確な人材確保が大切です。ミャンマー語の堪能な我妻豊氏とのケシ撲滅計画が開始されたのです。我妻氏はミャンマーの人の関係、特に軍事内閣の中で平衡感覚があり、政府の上層部の中で活用している林業大臣を選び、平成13年3月に訪問し、研究事業計画を作成しました。ミャンマー林業省の幹部会議に出席し、意見交換を行ったところ、経済担当局長からはODAも大型の予算で行うべきだとの反対意見もありましたが、私には金銭的支援は出来ないが、少ない予算で成果を挙げる自信はあるが、成果は両国の努力次第であると話したところ、林業大臣から快諾を得ました。大臣から担当は森林局長とすると決定が下されました。ここで事業計画を作り調印して実行段階に入りました。平成14年4月2日にミャンマー政府は活動許可書を閣議了解し、国内での自由な活動が出来るようになりました。

活動拠点の決定

林業省は我々の活動拠点を北部カチン州の2ヵ所(ガイテイ地区とセイロン地区)と決定し、林業省の職員の

同行を認めてくれました。活動地域は、30ヘクタールの土地の提供がなされました。早速、ガイテイ地区のケシ栽培していた焼畑跡地に、研修薬草園を作り、ここに日本から持ち込んだ約30種の薬草を植え込みました。翌年、セイロン地区にも研修薬草園を作り100種の薬草と果樹を導入しました。薬草園作りは日本からの専門家の指導の下に現地の林業省の職員と地元の人たち(ケシ栽培者も含めた)と栽培を開始しました。

植栽植物の生育状況

両地区での植物は多くのものが良く育ちましたが、一部は暖かすぎて枯れてしまったものもありました。今までの生育結果からミャンマーに適する植物が解ってきましたので、本格的生産が開始しました。ベニバナ、ハトムギ、ウイキョウが第一候補です。地元の野生植物には重要なものが多く、ニンジン、黄精(ナルコユリ類)、重楼(クルマユリ類)、セッコク(ランの類)などがあり、これらの栽培も大きな目標です。

薬草の花が咲いたり、ミカンやブドウの実が出来るると現地の人たちは感激してくれています。

研修生の受け入れ開始と各地の希望者

地元も人を研修指導員として育てることからはじめ、5名を入れました。その後この中の3名は林業省の職

員に採用され指導に当たることになりました。各地のケシ栽培者のグループから研修希望が来るようになりましたが、宿泊設備も不十分なので少人数のみに限定しています。

少数民族の族長から研修希望があり、指導員になりそうな人を派遣してきました。この人の努力で研修終了後、地元で活躍している写真が送られてきました。驚いたことには、その一枚にはケシ栽培を不法に行っている人たちを一堂に集め、ケシ栽培を中止し、その代わりに薬用植物を栽培することになった、その栽培方法の講義をしている様子が写されていました。全員で栽培する場所を整備し、播種している写真もありました。この地域には積極的に支援を行うことになりました。現在栽培しているものはニンジン、ベニバナ、トウキ、センキュウなどです。

派遣と日本での研修員の受け入れ

日本からは我妻氏を派遣研究員として半年間、5回に亘り継続的な指導を行って貰っています。また、栽培研修指導及び野生薬用植物の調査として6次約60名の派遣が行われました。

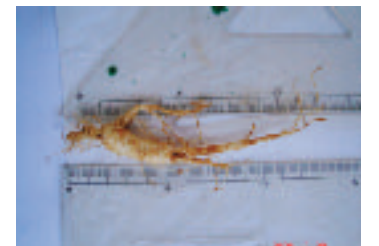
日本での受け入れは、2004年6月より半年間、接木の技術習得のためにミャンマー林業省の職員(タウエさん)に天童市の果樹農家で接木、剪定、日常管理などの研修を受けてもらいました。第一期の林業省との契約は2005年で終了となりました。2006年からミャンマーのみならずラオス、タイの麻薬撲滅運動の関係者との協力する仕事も入ってきました。ミャンマー国内では、新たな展開として、栽培面積の拡大と大量の種苗の供給体制の整備及び販売ルートの確保の段階に入っていました。

5年計画の第一期の成果をまとめてみました。

成果

1.代替え植物は薬用と果樹が生産可能であった。

2.ミャンマーの薬用植物(ニンジン類(人参)、ツクバネソ



収穫されたニンジンの4年根

ウ類(重楼)、ナルコユリ類(黄精)、カギカズラ類(釣藤鈎)等も国際マーケットに適するものがあった。薬用ラン(石斛)も無菌培養による増殖方法が確立されれば有望である。

3.セイロン地区は①林業省の支援の地元の人達、②マルー村の住民、③教会を中心としたキリスト教グループの3組織に種苗の供給、栽培指導、流通面での支援を行う予定である。ガイテイ地区は栽培可能植物の選地であったが、この使命を終えたので閉鎖する予定である。メイミョウ地区は苗作り、採種圃場、ミカンやブドウの苗木供給基地、剪定技術の指導などを行う計画である。多くの植物は北部の中央研修薬草園に移植し、実用栽培を開始する。契約栽培可能なものとして、ベニバナ、ハトムギ、ウイキョウ、ミシマサイコ、トウキ、センキュウ等が考えられる。ここでの販売ルートは中国市場と中国経由の日本へのルートも考えられる。



3年目に結実したミカンの収穫



大使館の支援

このプロジェクトに関して、大使館やJICAも興味を持ってもらっています。いくつかの麻薬対策プロジェクトとともに日本の成果としてケシ栽培をなくしたいものです。大使館は草の根無償でカチン州の少数民族の麻薬対策に支援してくれることになりました。今年の秋には根の支援で中央研修薬園がミッチーナの北に完成する予定です。

文部科学省の科学研究費の支給

ミャンマーの生活環境調査の研究課題で、数名の派遣費がつかしました。お茶の水女子大学の3名の教授及びそれぞれ1名ずつ助教授と講師の5名を派遣し、米の調理方法と食生活の調査、生活周辺の水環境の調査、生糸やハス繊維と伝統的な天然染料の調査、有用植物資源調査及び特異な化粧文化の調査をお願いしました。女子学生も同行し、山奥にあるコンニャクの原種やトリフ類を採取、成分研究を行っています。



コンニャクの野生地の調査

ミャンマーフォーラムの開催

我々の活動を広く知ってもらうためにミャンマーフォーラムを開催しています。第1回は虎ノ門発明会館で行われましたが、2回から6回はお茶の水女子大学の中で行われています。毎回、約150から200名のプロジェクトに興味を持っている人達が集まってくれて、いろいろの経験談の交換をおこなっています。ミャンマー関係者の連絡拠点的役割を果たすようになってきました。

このプロジェクトの最終目標は2014年であるので、継続的な組織が必要なために、NPO MSMP Project を設立し、平成13年12月に東京都から法人の許可をもらい、継続的活動が可能になりました。

ミャンマーは政治的に不安定で、危険な国とされていますが、我々のプロジェクトは政府の活動許可書が出されているので、現地での活動が自由で政府の監視の下に動いているので、女子学生も安心して調査活動を行っています。我々の活動を知り、ミャンマー北部の平和協定軍政府からケシ栽培地の非政府組織敷地内での指導要請がありました。ミャンマー政府はこれを認めてくれたので、我々の活動が非政府軍地域で出来るようになりました。

栽培可能な薬用植物の候補が決まり、採算可能な栽培方法の検討段階に入ったので、セイロン地域で、薬用植物を中心に村おこしが起こりつつあります。また、紅花は品質が良く、市場性があるので、広い面積での栽培が可能である。果樹類も成育が良い。剪定技術及び栽培方法の指導を行いました。日本や中国の重要な薬用植物の重楼、黄精、薬用ラン及びミャンマー人参などが見つけ出されました。

退職1年後、鶴田審議官の紹介で私は日本浴用剤工業会専務理事に就職しましたが、10ヵ月後、お茶の水女子大学の教授の依頼があり大学に移ることになり、昨年二度目の定年退職をし、現在、客員教授としてこのプロジェクトを継続しています。

(次号続く)

Library

【新着資料案内ー平成19年3月14日～平成19年4月13日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (電話03-5466-1827) までお越し下さい。

＜配列は書名のアルファベット順＞

書名	出版社名	出版年月	ページ	定価
15107の化学商品 著者名／化学工業日報社	化学工業日報社	2007年1月	2,218p	¥34,650
British National Formulary No.53 著者名／Dinesh K. Mehta ed.	BMJ Publishing Group	2007年3月	931p	¥8,155
治験医薬情報 No.36 2005年版 著者名／医事出版社	医事出版社	2006年9月	487p	¥28,840
医療用医薬品品質情報集 (平成19年1月版) 付録 日本薬局方医薬品規格第三部 著者名／厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2007年3月	228p	
改訂 化学療法用語集 著者名／日本化学療法学会 編	協和企画	2005年7月		¥3,150
血管保護の新戦略 著者名／丸山 幸夫、石橋 敏幸 編	ライフ・サイエンス	2007年3月	225p	¥4,200
今日の診療のために ガイドライン外来診療 2006 著者名／泉 幸英 編	日経メディカル開発	2006年3月	519p	¥14,700
Medicines Compendium 2007 著者名／Datapharm Communications Ltd	Datapharm Communications Ltd	2007年	2,980p	¥31,190
NEW医薬品情報 著者名／岡野 善郎 他 編	廣川書店	2007年3月	309p	¥3,780
日本造血細胞移植学会 平成18年度全国調査報告書 著者名／日本造血細胞移植学会データセンター	日本造血細胞移植学会データセンター	2007年3月	335p	
プライマリケア・メンタルヘルス活動のための10の心理テスト-入門から応用まで 著者名／芦原 睦 編著		2007年4月	110p	¥2,415
Rote Liste 2007—Arzneimittelverzeichnis für Deutschland 著者名／Rote Liste Service GmbH	Rote Liste Service GmbH	2007年		¥17,753
サプリメント事典 第2版 著者名／蒲原 聖可	平凡社	2007年2月	431p	¥2,100
知っておきたい医薬品業界のルール-よりよい薬を生み育てる人のために 著者名／医薬教育研究会 編	じほう	2007年3月	295p	¥3,150
図書館協力ハンドブック 2007 著者名／国立国会図書館関西館事業部図書館協力課 編	国立国会図書館	2007年3月	109p	
USP dictionary of USAN and international drug names 2007 著者名／The USP Convention, Inc.	USP Convention, Inc.	2007年	1,238p	¥59,510
薬事ハンドブック2007 著者名／じほう	じほう	2007年3月	536p	¥2,520
表形式 薬物相互作用禁忌一覧 作用機序・対処法等の解説 著者名／米田 和子 編	じほう	2007年3月	180p	¥2,835

情報提供一覧

平成19年4月1日から4月30日の期間に提供しました情報は次の通りです。
出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局業務・渉外担当 (TEL.03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	データベース一覧	更新日
＜出版物等＞		＜IyakuSearch＞	http://database.japic.or.jp/
1.「医薬関連情報」4月号	4月27日	1.医薬文献情報	月1回
2.「Regulations View Web版」No.140	4月27日	2.学会演題情報	月1回
3.JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2007年4月」	4月26日	3.医療用医薬品添付文書情報	月2回
4.JAPIC「医療用医薬品集」2007 更新情報2007年4月版	毎月末日	4.一般用医薬品添付文書情報	随 時
5.「添付文書入手一覧」2007年3月分	4月27日	5.規制措置情報	毎 日
6.「JAPIC NEWS」No.277	4月27日	6.臨床試験情報	随 時
＜速報サービス等＞		7.日本の新薬	随 時
1.「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.580—583	毎 週	8.学会開催情報	月2回
2.「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	＜JIP e-InfoStreamから提供＞	https://e-infostream.com/
3.「JAPIC-Q Plusサービス」	毎月第一水曜日	1.「JAPICDOC速報版 (日本医薬文献抄録速報版)」	月1回
4.「外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」No.1436—1456	毎 日	2.「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月1回
5.「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」No.185—188	毎週月曜日	3.「ADVISE (医薬品副作用文献情報)」	月1回
6.「PubMed代行検索サービス」	毎月第一・三水曜日	4.「MMPLAN (学会開催予定)」	月1回
7.JAPIC「医療用医薬品集」2007 更新情報メールサービス2007年3月版	毎月10日	5.「SOCIE (医薬関連学会演題情報)」	月1回
		6.「NewPINS (添付文書情報)」(月2回更新)	月2回
		7.「SHOUNIN (承認品目情報)」	月1回
		＜JST JDream IIから提供＞	http://pr.jst.go.jp/jdream2/
		「JAPICDOC (日本医薬文献抄録)」	月1回